

記者発表資料

令和8年1月22日

件名	あつきしんめいまつり 阿月神明祭（国指定重要無形民俗文化財）
日時	令和8年2月11日（祝・水） 【朝】起し立て 東 8：00 西 8：30 【昼】神明太鼓 13：20 長持じょうげ 東14：00 西14：30 神明踊り 東・西ともに長持じょうげ終了後 【夜】神明踊り 東18：00 西18：40 はやし方 東18：20 西19：00
場所	柳井市阿月 東・西神明宮前の浜（柳井市阿月出張所付近）
主催	東・西神明宮 阿月神明祭顕彰会
内容	宮中の行事『左義長』が民間に伝わった俗称「とんど」と、神明信仰の習合した神明祭に、小早川家の軍神祭が習合した祭事といわれ、正保元年（1644年）に浦就昌が阿月に移封され、その時より始まったとされています。 朝、東・西神明宮前に御神体を立て、神明踊りや太鼓、長持じょうげ等を奉納し、夜、御神体に火を放って（はやして）終わります。 詳細は別添チラシをご参照ください
備考	1月25日（日）8時～足出し（御神体の材料切出し）東・西神明宮前ほか 1月31日（土）・2月1日（日）8時～巻立て（御神体づくり）東・西神明宮前の浜 1月31日（土）・2月2日（月）・3日（火）・4日（水）・5日（木）19時～20時 神明踊りの練習（小中高生）阿月公民館ルーム1+2 ※幼児の踊り練習は別途 2月11日（祝・水）祭当日は8時30分から20時00分まで通行止め区間があります。また7時頃から裸坊のじょうげが道路を練り歩きますので、通行に支障のないようお早めのご来場をお願いします。
問い合わせ	柳井市阿月公民館 館長 玉井洋明 TEL 0820-27-0001 FAX 0820-27-0021 E-mail atsuki@city-yanai.jp

国指定重要無形民俗文化財

阿月神明祭

令和8年2月11日(祝)
東・西神明宮前の浜

奉賛行事	東方	西方
起し立て	午前8時00分	午前8時30分
神明太鼓	午後1時20分～ 於:旧阿月公民館跡地	
長持じょうげ	午後2時00分	午後2時30分
神明踊り -昼-	長持じょうげ終了後開始	長持じょうげ終了後開始
神明踊り -夜-	午後6時00分	午後6時40分
はやし方 <small>(御神体を燃やす)</small>	午後6時20分	午後7時00分

〈交通案内〉

- ◆ お車で ※臨時駐車場あり
 - ・光方面より《R188》「ゆめタウン柳井」右折(上関方面へ約8km)
 - ・岩国方面より《R188》「ビジコム柳井スタジアム」左折(上関方面へ約7km)
- ◆ 路線バスで(祝日3便運行)
 - 柳井駅(3番乗り場)より防長交通バス乗車
 - 柳井医療センター行で約18分
 - 柳井医療センター前下車、徒歩約14分

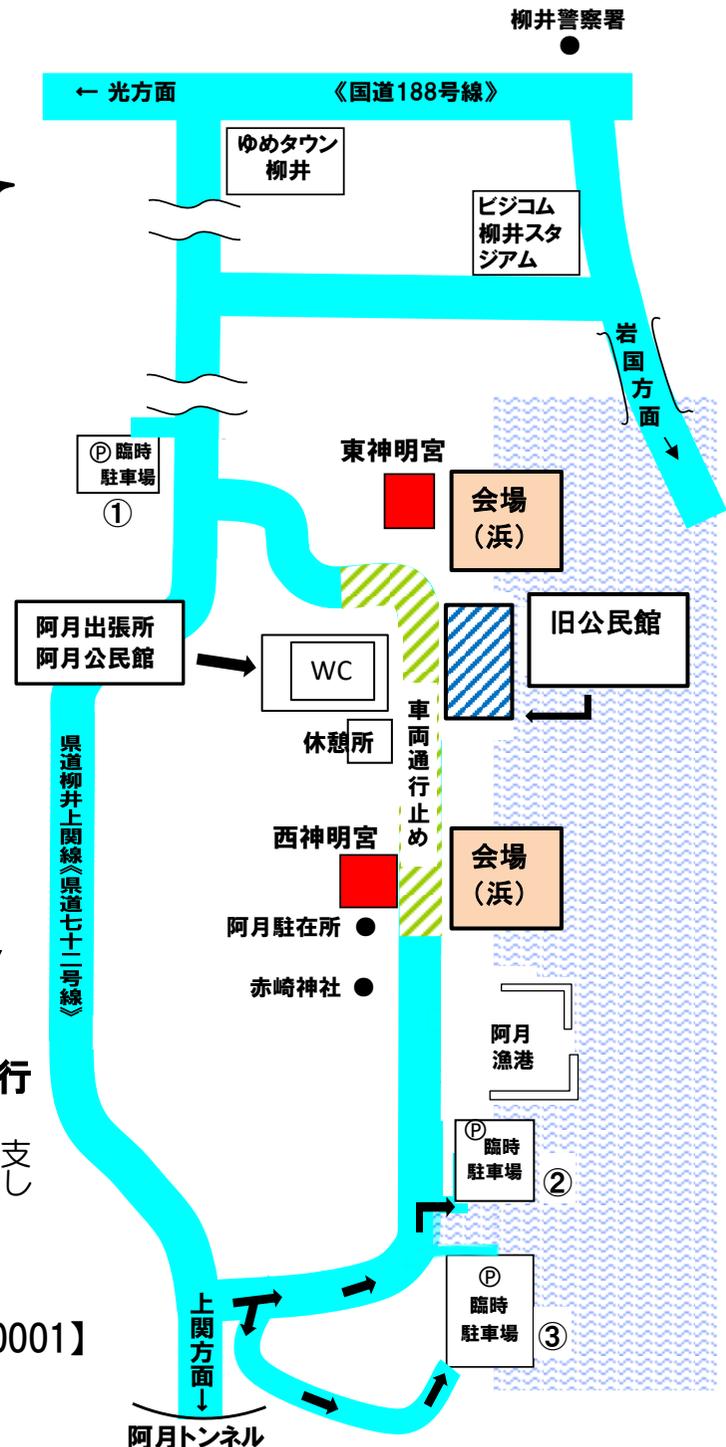
☆行事内容は、雨天等に変更・中止される場合がありますので、ご了承ください。

☆午前8時30分から午後8時00分まで車両通行止め区間があります。(右図参照)

※起し立て前にじょうげが練り歩きますので交通に支障がでる場合があります。お早目のお越しをお勧めします。

阿月神明祭顕彰会

【問い合わせ：柳井市阿月公民館 ☎0820-27-0001】



阿月神明祭

◇由来

阿月神明祭は『左義長』と言う宮中の行事が民間に伝えられた俗称「とんど」と、神明信仰の習合した神明祭に、小早川家の軍神祭が習合した祭事といわれています。

旧阿月領主の祖浦宗勝とその子景継は小早川隆景に従って文禄元年(一五九二)朝鮮半島へ出陣の折、伊勢神宮へ祈願をして大勝を得た事により以後小早川家の軍神祭として執り行なわれることになりました。

その後、正保元年(一六四四)浦就昌が阿月に移封され阿月の東西両地区の砂浜二か所に、天照皇大神宮(東神明宮)並びに豊受大神宮(西神明宮)を奉祀しました。この時より神明祭は始まったとされています。

この祭りは、松・竹・椎・裏白・梅・橙・皇大神宮の大麻(御札)並びに扇等を以って、天照皇大神をまつる御神体を作ることからはじまります。この御神体を阿月では神明或いは神明様と言って、浦氏の時代から今日まで連綿と守り継がれています。

◇内容

(一)巻立て(祭り前の土・日曜日に神明を造る作業)

神明の構造は、松竹梅の縁起を基に、ダイダイ(橙)代々や御幣など子孫繁栄や厄除けの意味をこめたものとなっています。まず、黒松四本と心棒で脚を作り、神笹の竹二本と松とを一緒にして三か所を締め付けます。ついで下部に椎の枝でお椀形の餅柴(もちしば)を作り、中央部に大麻二〇〇枚を供えた扇餅、その下に橙の皮、上に梅の枝をつけます。さらに上部に竹二本を横に渡し縄で隙間なく巻いた弓張、その下に裏白で諸葉餅を作ります。こうして長さ約二〇メートルの御神体が東西の砂浜に各一基、横向き状態で完成します。

祭り当日御神体は、巨大な御幣3つが付けられ、五色(赤・青・黄・緑・白)の神帯、かにと呼ばれる飾り、くす玉等によって色鮮やかに飾られます。

(二)起し立て(御神体を起し立てること)

早朝から身を清めて、白の鉢巻・白の肌着・白足袋を身につけた若者たちが、酒樽に棒をかけて担ぎ、特殊な足取りで通りを練り歩きます。これを「じょうげ」と言います。

「じょうげ」が神明宮の前に揃うと、法螺貝を合図に、神明の起し立てにかかります。二〇メートル余りの大鉾が、ハズ(張り綱)やカイゴ(はしご)に支えられ、浜をきってたちあがる光景は、祭事の中でも最も勇壮な景観です。起し立てが終わると、過去一年間に結婚した男子を海に投げ込む水祝いが行われます。

(三)長持じょうげ

花笠を飾った長持に棒を結んで三人が担ぎ、長持囃子というのを唄い囃しながら特殊な足取りで練る行事です。その前に一人、短冊をつけた笹竹をもって先頭に立ちます。

長持には古くは食物を入れて持ち歩くものとされていますので、各地区から神前に献進する御鏡餅、其の他の神饌を容れて運ぶ遺風と考えられます。

(四)神明踊り

神明踊りは、昼と夜御神体の下で、音頭・太鼓に合わせて御神幸の奉仕踊りを行うもので、男子は赤穂浪士や新撰組、柳生但馬守と十兵衛など槍や刀や菅笠を持って武者踊りをし、女子は傘や短刀を持って二人組みの踊りをします。また保育園児はボンデン踊り、小学生は花笠踊りや、ねずみ小僧と岡つ引きなどに扮した踊りなど、役柄も多く衣裳にも工夫がこらされています。

音頭歌詞としては、源平合戦の敦盛、熊谷直実、那須与一、大関記、忠臣蔵の義士討入りなどがあります。阿月神明祭に、神明踊りのあることは特色の一つです。

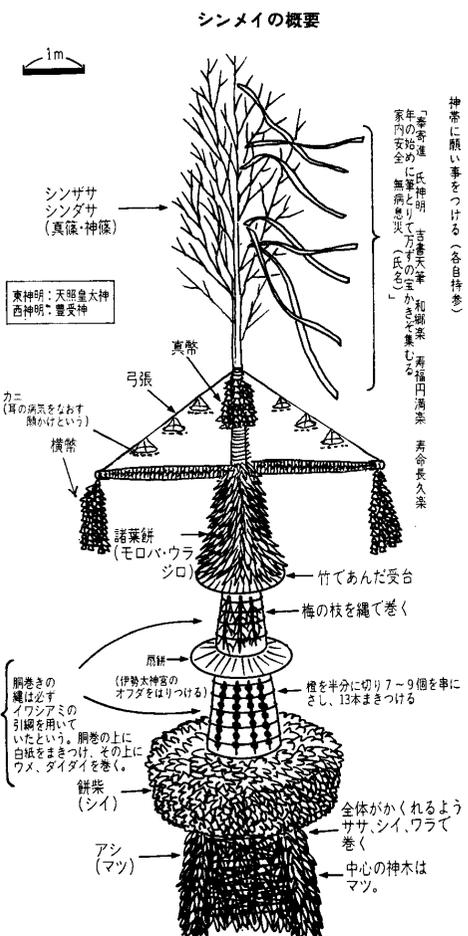
(五)はやし方(神明をはやす燃やすこと)

神明の前の霊代の鏡が撤去されて、昇神の式が済むと、総代によって神明に火がつけられ、たちまち火柱は火龍昇天の勢いで燃え上がり、餅柴はふきあがる風にあおられながら焼けていきます。

人々は囃し言葉をたてながら張り綱をたぐりつつ神明を海側に倒します。

見物の人々は、まだ燃えさかる神明の飾りや、御幣などを我先に奪い合い、心木の松の木は抜き取られて長い火の畝が浜に横たわって、いつまでも燃え続けます。

最後に若者達によって「シャン、シャン、シャン」と三度の締打ちが行われ、神事は終わりを告げるのです。



シンメイの概要
「聖奇道」氏神明、吉達天香、加藤宗、浦田清宗、寿命長久染、家内安全、無病息災(氏名)。
カニ(耳の病気をなおす神かけという) 横簾 諸葉餅(モロバウラジロ) 竹であんだ受台 梅の枝を縄で巻く 扇餅 (伊勢大神宮のオブダをかりつける) 椎を半分に切り7-9個を串にさし、13本まきつける 全体がかくれるようササ、シイ、ワラで巻く 中心の神木はマツ。 餅柴(シイ) アン(マツ)